

県政記者クラブ各位

## 第31回齋藤茂吉短歌文学賞の決定について

第31回齋藤茂吉短歌文学賞について、下記のとおり決定しましたのでお知らせします。

記

### 1 受賞者及び作品等

(1) 受賞者 よしかわ ひろし  
吉川 宏志

(2) 作品名 「石蓮花」(歌集) せきれんか (歌集) しよしかんかんぼう 書肆侃侃房 (出版) 平成31年3月発行

#### (3) 受賞者略歴

歌人。1969年(昭和44年)宮崎県生まれ 51歳。

昭和62年「塔」入会。現在、主宰。現代歌人協会理事。京都新聞歌壇選者。

#### 【主な著作等】

歌集：平成7年『青蟬』、平成12年『夜光』、平成17年『海雨』、  
平成18年『曳舟』、平成21年『西行の肺』、平成24年『燕麦』、  
平成28年『鳥の見しもの』、平成31年『石蓮花』

著書：平成19年『いま、社会詠は』、平成20年『風景と実感』、  
平成21年『対峙と対話』(大辻隆弘氏と共著)、  
平成27年『読みと他者 短歌時評集二〇〇九―二〇一四』、  
平成28年『時代の危機と向き合う短歌』(三枝昂之氏と共編)

受賞歴：平成6年第12回現代短歌評論賞、平成8年第40回現代歌人協会賞、  
平成13年第9回ながらみ現代短歌賞、平成17年第41回短歌研究賞、  
平成18年第11回寺山修司短歌賞、第7回山本健吉文学賞、  
平成25年第11回前川佐美雄賞、平成28年第21回若山牧水賞、  
平成29年第9回小野市詩歌文学賞、  
令和2年第70回芸術選奨文部科学大臣賞

#### (4) 選考理由

全国の歌人によるアンケート結果を踏まえ、選考委員によって4冊の歌集が最終選考に残された。今回は、たまたま年齢の近い4人の歌集が残ることになったが、それぞれ歌壇の第一線で現代短歌を牽引している実力伯仲の歌人たちであり、当然予想されたように、むずかしい選択を迫られ、議論が白熱せざるを得なかった。

その議論のなかで、最終的に吉川宏志氏の第八歌集『石蓮花』に評価が収斂することになった。吉川氏は、これまでに現代歌人協会賞、若山牧水賞、小野市詩歌文学賞など多くの賞を受賞し、その実力は広く認められている歌人である。本歌集でもその卓越した景の把握力、細部への集中力、レトリックの自在さとそれに遊ぶ余裕など、従来の吉川氏の世界の発展をみることができる。その他に、母の死を切実に詠った一連が歌集の特色と厚みをもたらしている。

中堅歌人のなかでも本格派と目されるひとりの歌集が、齋藤茂吉短歌文学賞のリストに加わったことを喜ぶたい。(選考委員長 永田和宏)

### 2 贈呈式

令和2年5月17日(日)に、上山市体育文化センターで開催される「第46回齋藤茂吉記念全国大会」の席上で行う予定。

(問い合わせ先)  
齋藤茂吉短歌文学賞運営委員会事務局  
(山形県観光文化スポーツ部県民文化スポーツ課)  
担当 高橋 電話 023-630-2283  
報道監 観光文化スポーツ部次長 齋藤

# 齋藤茂吉短歌文学賞について

## 1 目的

山形県の生んだ歌人齋藤茂吉が短歌文学の発展振興に寄与した功績を記念し、短歌の分野において優れた業績をあげた者を顕彰する全国レベルの賞として、平成元年度に創設。歌壇の振興に寄与し、併せて本県の文化発信地としてのイメージアップを図る。

## 2 主催

齋藤茂吉短歌文学賞運営委員会（委員長：山形県知事）

## 3 選考（第31回）

### （1）齋藤茂吉短歌文学賞選考委員

委員長	永田和宏	「塔」選者
委員	小池光	仙台文学館館長
委員	小島ゆかり	「コスモス」選者
委員	三枝昂之	「りとむ」発行人

### （2）対象作品

平成31年1月1日から令和元年12月31日までに発行された歌集・歌論・歌人研究等。

### （3）選考経過

#### ①歌人等からの推薦（令和2年1月）

全国の有名歌人等205名に推薦を依頼し、17作品を選出。

#### ②予備選考（令和2年1月）

推薦された17作品について選考委員に予備選考を依頼し、4作品を選出。

#### ③本選考（令和2年2月11日）

東京都内で選考委員会を開催し、選出された4作品から受賞者・作品を決定。

## 4 賞の贈呈（令和2年5月17日）

賞状及び賞金100万円を贈呈。

## 齋藤茂吉短歌文学賞既受賞者及び作品一覧

区 分	受賞者名	受賞作品名	分 野
第1回（平成元年）	岡井 隆	親和力	歌集
第2回（平成2年）	本林 勝夫	齋藤茂吉の研究 -その生と表現-	歌人研究
第3回（平成3年）	塚本 邦雄	黄金律	歌集
第4回（平成4年）	前 登志夫	鳥獸蟲魚	歌集
第5回（平成5年）	齋藤 史	秋天瑠璃	歌集
第6回（平成6年）	近藤 芳美	希求	歌集
第7回（平成7年）	小暮 政次	暫紅新集	歌集
第8回（平成8年）	馬場 あき子	飛種	歌集
第9回（平成9年）	吉田 漱	『白き山』全注釈	歌集研究
第10回（平成10年）	佐佐木 幸綱	呑牛	歌集
第11回（平成11年）	伊藤 博	萬葉集釋注	歌集研究
第12回（平成12年）	森岡 貞香	夏至	歌集
第13回（平成13年）	竹山 広	竹山広[全歌集]	歌集
第14回（平成14年）	藤岡 武雄	書簡にみる齋藤茂吉	歌人研究
第15回（平成15年）	清水 房雄	獨孤意尚吟	歌集
第16回（平成16年）	小池 光	滴滴集	歌集
第17回（平成17年）	三枝 昂之	昭和短歌の精神史	歌論
第18回（平成18年）	花山 多佳子	木香薔薇	歌集
第19回（平成19年）	永田 和宏	後の日々	歌集
第20回（平成20年）	河野 裕子	母系	歌集
第21回（平成21年）	伊藤 一彦	月の夜声	歌集
第22回（平成22年）	品田 悦一	齋藤茂吉 -あかあかと一本の道とほりたり-	歌人研究
第23回（平成23年）	篠 弘	残すべき歌論 -二十世紀の短歌論-	歌論
第24回（平成24年）	秋葉 四郎	茂吉幻の歌集『萬軍』	歌集研究
第25回（平成25年）	栗木 京子	水仙の章	歌集
第26回（平成26年）	小島 ゆかり	泥と青葉	歌集
第27回（平成27年）	柏崎 驍二	北窓集	歌集
第28回（平成28年）	橋本 喜典	行きて帰る	歌集
第29回（平成29年）	大辻 隆弘	景德鎮	歌集
第30回（平成30年）	春日 真木子	何の扉か	歌集
第31回（令和元年）	吉川 宏志	石蓮花	歌集

【 吉川 宏志 氏 】

